

授業の改善に向けて

——ひとつの試みの例——

西 澤 宗 英

1 はじめに

全学的に様々な議論を巻き起こして何とかスタートした、「大学が、その責任において、組織的に行う」学生よる授業評価も、2006年度前期の集計結果が伝えられて、その4年目の半分が終わった。依然として、様々な意見はあるようだが、とにかくにも、一応の定着を見たといってよいだろう。

2004年度からは、各教員の項目ごとの回答数(回答割合)に加えて、5段階の数値換算による平均スコアが示され、さらにこれが大学全体の平均スコアと比較できるようになった。各教員は、これによって、自分の評価が、全学的に見てどの程度の位置づけになるかを知ることができるようになった。もっとも、この全体平均は、2005年には示されなくなり、こうした比較ができなくなっただ。これでは、「授業改善のために」という目的の最重要部分が缺落することになってしまう。

また、同年度から、こうした数値データの一部が学内ウェブに公開されることになったので、学生はもとより、教員も、評価結果により広く接することができるようになった。もっとも、その公表内容は、一部の学部・教員の例を除いて、個人別のデータではなく、基本的には、ある「まとまり」ごとの平均数値に過ぎず、そのようなデータが、いうところの「授業改善」にどれほど資するものであるかは極めて疑問である(なお、以上のような趣旨から、私は、法学部教授会の了解の下、初年度から、担当者名と科目名と明示した評価結果をウェブ上に公表している。このうち、本報告には、読者に参考資料として供するために、数値データの部分のみ、末尾に引用した)。

他方で、こうした形で、数値化された結果のデータだけが公表されることによる問題点も否定できない。いわゆる「数字の独り歩き」である。このことは、個人別のデータが公表される場合に、一層明確になる。

いうまでもなく、評価の結果として現れた数字は、半期ないし1年の授業期間を全体として評価の対象としたものであるはずであるから、その数字の背後には、個々の教員が、その半期ないし1年の授業期間中、どのような考え方に基づいて、どのようにその授業を行ってきたかという「営み」があるはずである。そうであるとすれば、本来、こうした評価結果の公表に当たっては、その前提となった「営み」がどのようなものであったかを明らかにすることが伴っていないなければならないはずである。

この報告は、こうした問題意識から、私の授業に対する学生諸君の評価結果を前提として、それがどのようにして行われた授業に対する評価であるかを示そうとするものである。いいかえれば、「こういうやり方をしてきたら、このような評価になった」ということを示そうとするものである。

2 どのように授業をしてきたか——授業に臨む姿勢

(1) 「ポリシー」の確立とその徹底

私は、青山学院大学に赴任して、2006年3月で満13年を経過した。この間、担当した科目は、法学部の講義科目だけに限っても、「破産法」に始まって、「民事訴訟法Ⅱ」、「民事訴訟法Ⅰ」、「法学入門」、「裁判と法」および「フランス法」に及ぶ。2003年度は、「法学入門」（相模原・2単位）、「裁判と法」（相模原・2単位）、「民事訴訟法Ⅰ」（青山・前期集中4単位）および「民事訴訟法Ⅱ」（青山・後期集中4単位）、2004年度は、これに「フランス法」（青山・4単位）が加わった。2005年度は、「法学入門」、「裁判と法」、「民事訴訟法Ⅰ」および「フランス法」、2006年度は、このうち「民事訴訟法Ⅰ」に代えて「民事訴訟法Ⅱ」である。

これらの講義科目に臨むに当たって、講義の内容ではなく、「講義の進め方」について、就任当初から一貫して守ってきたものがある（実際には、前任校の時

代から続けているので、通算では20年以上続けていることになる)。これを「ポリシィ」と呼んでいる。具体的には、「どのような姿勢で、どのような考え方に基づいて、どのような方法で講義に臨んでいるかということについてひとつの立場を確立し、それを、当該講義を履修・聴講する学生諸君に、明確なメッセージとして伝える」というものである。この「ポリシィ」は、毎学期・毎年度の第1回の講義の際に、講義の内容およびスケジュールとともに、レジュメに基づいて、90分すべてを使って詳細に説明される。その内容は、次のようなものである(科目と対象学年によって、細部に若干の違いはあるが、基本はすべて共通である。以下の例は、一部を除いて、「法学入門」のものである。なお、ここに引用するに際しては、ポリシィの中で私が特に重視している部分をゴチック体にした)。

【この講義に臨む姿勢(講義を進める方針)】

私は、「『先生』と呼べるのはただひとり、今教壇に立っているのは、すべて『先輩』」という理念で授業が行われている大学を卒業した。この理念は、青山学院大学における私の講義の基本姿勢でもある。すなわち、この講義は、法律学における「先輩」が、「後輩」であるあなた方を相手にして行うものであるというのが、私の姿勢、すなわちポリシィである。いいかえれば、私自身、毎年の講義をしながら、法律学全体の勉強をなお続けているのであって、そういう意味では、この講義は、私が学んだことを「先生として学生に教える」場ではなく、私とあなた方との「共同作業」によって、法学を「共に学んでゆく場」である。そのためには、講義を一方的なものにせず、聴講するあなた方との間に双方向的な関係を作りたいと考えている。あなた方には、共同作業のパートナーとしての役割を期待しているので、より良い講義を作り上げてゆくために、ぜひ積極的に協力して頂きたい。

さらに、あなた方を共同作業のパートナーと看做すということは、あなた方を「生徒」ではなく「学生」、いいかえれば、「大人」として扱うこと

を意味する。大人としての学生には、それなりの責任が求められる。

【この講義の具体的な進め方——ポリシーの実現】

それでは、具体的にこの講義をどのようにして進めるか。相手となるあなた方が、初めて「法学」を学ぶ学生であるということを考えたとき、もっとも重要なことは、話をできるだけ具体的なものにし、抽象的なものにしないということである。

そこで、第一に、できるだけ毎回のテーマについて、はじめに具体的な問題を設定することにする。その問題を手がかりに、毎回のテーマについて考えてゆくということにしたい。

第二に、大学の授業では、高等学校の授業と違って、当然に「教科書」があるとは限らない。毎回の講義のテーマは、私のプランに基づいて選択されたものである。それゆえ、講義は、私の講義ノートに基づく「フリー・ノート方式」というやり方で行われる。これは、大学の授業一般で行われているもので、担当者が説明することを学生が聞きながら、重要であると思ったところをノートしてゆく(ちょうどメモを取るように)という方法である。高等学校までの授業では、ノートを取るという作業の大半は、先生が黒板に書くことを「写す」という作業であったと思う。大学では、一般に(とくに私の科目では)、そういう授業はしない。今日、この瞬間から、「黒板を写す」というやり方は捨てなさい。とくに、私の授業では、原則として黒板には「文章」を書かない(書くのは「図」である)。したがって、黒板を写しても、意味がない。担当者によっては、それがいいか悪いかは別として、1時間の間、黒板には何も書かないという教員もいないわけではない。

しかし、そうすると、始めのうちは、何をノートしてよいかわからないという状態になるだろう。そこで、第三に、この講義では、今しているように、毎回の講義の内容に忠実なレジュメ(Résumé)(「要約されたもの」という意味のフランス語である)を配布する。これは、毎回、授業の始まる前に教室の入口で「授業係」の学生(5名くらい)によって配布してもらう

(こういう担当を決めるのも、「共同作業」の一環である)。これには、ご覧のように「余白」をとってあるので、そこに自由に書き込みをすればよい。要するにこれは、一方で、講義の要点をまとめたものであるとともに、他方で、ノートを取る作業の省力化を図るものである。それゆえ、これとは別に、とくにノートを用意するか否かは、あなた方が自分で判断すればよい。なお、ついでになるが、ノートを用意するときは、「ルース・リーフ」式のものでなく、「1科目1冊」のきちんと製本されたノートを用意すべきである。

第四に、教室の入口では、講義レジュメのほかに、毎回、今日と同様に、**B5版の小さなアンケート用紙を配布する**。これも、一方で、「共同作業」の一環である。質問、意見をいつでも出してもらえるようにするだけでなく、質問には答えを、意見にはコメントを付して次の時間に返す。質問や意見でなく、感想でも構わない。他方で、これは、「共同作業」の成果についての、いわば、私自身の、その日その日の授業評価でもある。大学では、学期末・学年末に学生による授業評価を行っているが、このような方法では、そこで示された結果に担当者が応えるのは次の学期・年度になり、当該年度に受講している学生のためにはならない。しかし、毎回アンケートをとっていれば、場合によっては、次の週からでも、改善や新しい試みをすることができる。

第五に、それゆえ、この講義は、必修科目ではあるが、私との「共同作業」に協力してもらえる学生だけに来てもらえば十分である。大学の講義である以上、出席を強制することはしない(たとえば、出席を確認し、何回出席したから成績評価に加えるなどということはない)。要するに、「今日は西澤の話を聴こう、一緒に授業を作ろう」という学生だけに来てもらえばよい(もっとも、「法学」は、これまでに経験したことのない科目・講義であるうえに、いわゆる「教科書」がないのであるから、出席しないで独学で試験に合格し、単位を取得することは、ほとんど不可能であると思うので、できるだけ出席することを強くお勧めはする)。

第六に、これまでのところからお分りのように、「マイクを使わない」ということである。私がマイクを使わないのは、この教室自体の音響効果がよいことだけでなく、音源を一個所にして、そこに集中してほしいからである。そのためには、教室が静かであることが望まれる。私は、教室内に「私語」がある場合でも、やめるように注意することはしない。「私語」に気づいた時点で、直ちに話を中断する(中断は、私語が止むまで継続される)だけである(「北風」であるよりは、「太陽」でありたい)。この授業には、すでに申し上げたように、「私の話を聴こう」と思って出席している学生だけがいるはずであるから、誰かが「私語」をすることによって、講義を中断させるということは、私に対する関係ではなく、講義を聴きたいと思って出席している学生、ほかならぬ諸君の同僚・友人に対する背信行為、といって分かりにくければ、裏切りであるということになる。この姿勢は、厳格に貫かれるので、ぜひ理解していただきたい。私が「注意」するのでなく、あなた方が相互に「注意しあう」ことを期待する。あなた方には、大人としての責任が求められるといったのは、具体的には、このようなことに現れる。もっとも、最近では、「私語」のかわりに携帯電話でメールのやりとりをする学生が増えてきている。そういうことは教室の外でやっていただきたい。すでに申し上げたように、出席を取ることはしないので、講義を聴く気のない学生が出席点を期待して教室に来ていても、何ら意味はない。

第七に、成績評価は、「試験」のみによって行うことを原則とする。「原則とする」ということの意味は、繰返し述べてきたように、講義を「共同作業」と考えているので、この「共同作業としての講義」に対する諸君の「貢献度(授業に対する諸君の姿勢)」というものを、何らかの方法で考慮したいということである。具体的な方法、とりわけ客観的な定量化は難しいが、何とか工夫したいと考えている。「試験」は、7月に行う。20点満点である。評価にあたっては、12点に達した者を合格(C)とする。あなた方の中には、これまでの12年間の学校教育のある種の弊害に漬っていて、学習

(勉強)といえは、「暗記」することであると思っている人が多い。しかし、法(律)学の学習は、基本的に「考える」ことが主体になる。必要最小限度のことは覚えなければならないが、重点は「覚える」ことにあるのではなく、「考える」ことにある。したがって、試験の内容も「暗記力」を試すものではない。それゆえ、大学、とりわけ法学部で法律学について行われる試験は、基本的に「記述式」である。そこでは、物事を論理的に考え、考えたことを文章にまとめるという作業が何よりも重要になる。

(以下は、「民事訴訟法Ⅰ」の場合に固有の項目である)第八に、多少いいにくいところもあるが、休講は避けられない。休講した場合には、必ず補講をする。例年、一部の学生から、休講と補講が多いという批判があるが、レジュメの末尾に掲げたような現在の私の社会的な立場からは、休講は避けられない。休講するのは、基本的には、学会出張するためと司法委員として簡易裁判所の仕事をするためである。学生諸君は、他方で、この講義が裁判手続に関するものであるがゆえに、講義の中で裁判所実務に触れることを期待する。そうした要望に応えられるのは、私が現に裁判所の仕事をしているからであって、その仕事のためには、法廷のスケジュールとの関係で法廷が開かれる日には、休講せざるを得ない。本日の時点で、休講が確定しているのは、〇月〇日(学会)、〇月〇日(学会)、〇月〇日(法廷)である。この他に臨時に発生した場合には、事前に情報端末等でお知らせする。また、補講のためには、学事歴の中に時間の割り当てもあるが、試験の直前のわずか2日間であり、他の補講も集中するので、**私の補講は、すべて、学期中の火曜日第6限または金曜第6限を利用して行う。**現在予定されている補講日は、〇月〇日、〇月〇日、〇月〇日である。

以上申し上げてきたことは、すべて、私が本学に赴任以来、これまで一貫して貫いてきた姿勢・方法である。そのことが、私の講義を履修・聴講した学生諸君にどのように評価されたかは、大学が行った授業評価アンケートの結果および法学部ゼミナール連合が発行する『法ゼミ誌報』に掲

載された「学生による授業評価」の結果にはっきりと表れている。

以上が、第1回の講義の際に説明される私の「ポリシー」の内容である。学生に説明するための講義案をそのまま引用しているのも、とくに説明の必要はないと思われるが、若干の点を補足しておこう。

(2) 私が重視していること

(A) ポリシーの説明

まず、毎学期・毎学年の最初の授業日をもっとも重視して、これだけのことを説明するのは、「法学入門」を除くすべての担当科目が選択科目であることによる。必修である「法学入門」は、クラス指定もかかっているのも、学生は必ず履修・聴講する。だからといって「ポリシー」を説明する必要があるわけではないが、その重要性は、選択科目の場合の方が格段に高い。選択科目については、学生は、事前に様々な情報ルートから、様々な「評判」を聞いていることが多い。しかし、そうした情報は、往々にして主観的なものであり、客観性に乏しいので、意欲の高い学生であればあるほど、やはり直接自分の目で見、耳で聞いた情報に基づいて、当該学期・年度の履修計画を立てようとする。そのために、学事暦上は、履修登録期間の満了までに、少なくとも1回の授業が聞けるようになっているのである。それゆえ、第1回の授業は、学生がそれによって履修の最終決断をするための情報を提供する場でもある。しかも、ここに来る学生は、すでに履修を決断している学生ばかりではない。どうしようかと考えている学生、何となくやって来た学生もいる。私の狙いは、むしろこうした学生達である。こうした学生を履修登録に導くためには、単に授業科目の内容だけでなく、担当者自身についても、いわば「全人格」ともいうべき、できるだけ広い範囲の情報を提示することが必要になる。90分をフルに利用する所以である。

(B) 共同作業

次に、「姿勢」として重視しているのは、「共同作業」という点である。いうまでもないことだが、私は、授業というものは、担当者が学生に対して一方的

にサービス提供するだけのものだとは思っていない。丁寧な授業をすることは必要だが、それは担当者が何から何までひとりであることを意味しない。担当者のすべきことは、きちんとした計画に基づいて十分な準備をして教室に臨むことだけであって、とくに講義科目の場合には、それ以上「手取り足取り」のサービスをする必要はない。いい授業にするためには、学生にも一定の義務と責任を果たしてもらう必要がある。それが共同作業ということである。

共同作業の具体的なあり方のひとつが、「授業係」という学生である。授業係の仕事は、開始前の移動時間に講義準備室(研究室)に来て、その日の配布物(レジュメおよびアンケート用紙)を受け取り、教室の入口に置くだけのことである。この程度の単純作業にTAは使うべきでないと考えているので、青山キャンパスの講義では、ゼミの学生が分担し、相模原キャンパスの講義では、当該科目の履修者の中から募集している。第1回の講義の最後に希望者を募るのであるが、このところ、必ず10名以上の希望者が出る。授業係の学生がいることによって、私がプリントや資料を直接教室に運ぶ手間を省くことができるだけでなく、授業開始時に私が教壇に立った時点で、着席している学生はすべてレジュメを持っているので、授業開始後にこれを配付する時間(学生数によっては5分や10分かかることもあろう)を省くことができる。早めに来た学生は、授業が始まる前に、その日の授業の内容をおおよそ頭に入れて授業に臨むこともできる。授業係としての仕事を十分に果たした学生は、共同作業に積極的に貢献したものとして、成績評価に際して、プラスの要素として考慮する。

具体的な講義の進め方の中で、私が重視しているのは、レジュメ、アンケート、出席およびマイクである。

(C) レジュメ

レジュメについて、学生は、授業の進行に合っていると評価してくれているが、それは当然である。というのは、私は、メモやノートで講義をすることができないので、講義で話すことはすべて、すでに引用したような形式と内容で「講義案」として原稿にしており(したがって、これをそのまま印刷すれば、教科書として出版することもできる。『ここからはじめる破産法』は、そうして出

版したものである), この講義案から, 必要かつ重要な部分を抜き出したものが, 私の配付しているレジюме(ことばの本来の意味におけるレジюме)だからである。教員の中には, あまりに詳細な, 多量のレジюмеを配付すると, 学生はレジюмеに頼り, 講義を聴くことに集中しなくなり, ひいては, レジюмеを受け取ってすぐに帰ってしまうという弊害があるという意見もある。しかし, これは, レジюмеの作り方を工夫すれば解決できる問題である。私は, 法律科目のレジюмеには, 一切条文を引用しない。口頭で「〇〇法の第〇〇条によれば」というだけである。学生はレジюмеを見ながら, その概念や制度がどの条文を根拠にしているかを聞き漏らさないように, つねに注意を払っていなければならないのである。また, めったにしないが, レジюмеの中の重要な概念や用語をあえて空欄にしておくことがある。これも注意して聴いていなければ, 空欄を埋めることができないので, 講義に集中させることができる。

(D) アンケート

アンケートは, 共同作業という観点からも, 私がもっとも重視しているものである。回収する数は, 多いときで1日1科目で100通を超えることもあるが, 基本的には, すべてその日のうちに目を通す。質問には答えを, 意見や感想にはコメントを付して, 次の時間に返却するために, クラスごとに番号順に整理する。その後, 履修者名簿に, いつ, 誰がアンケートを提出したかを記録する。もちろん, すべての作業は私がひとりでを行い, TA はもとより, 嘱託職員の手を煩わせることもしていない。返却の際は, 一人ひとり名前を呼び, 直接手渡しで返却している。もとより代理は認めない。「法学入門」は3クラスであるが, 「民事訴訟法」や「フランス法」は, 全クラス, しかも, 3年生と4年生がいるので, いつも「3年A組」が最初で, 「4年L組」が最後になるということ避けなければならない。そのため, 「法学入門」では, 最初の週がA組から, 次の週がB組から, というようにローテーションを組み, 全クラスや2学年にまたがる場合には, 最初の週が3年生の前半から, 次の週は3年生の後半からというようにローテーションを組んでいる。これらの作業をすべて私一人で処理し, こうした手順を踏んでいるのは, 質問や感想とコメントのやり取り

が、ときには、履修相談や法律相談に及ぶなど、個人的な要素にわたることがあり、いわば「私信」のような内容になることもあるからである。就任1年目から続けているが、25回の授業になる4単位科目では、1年間で延べ1000通から多いものでは1500通を超える数になることもある。因に、2006年度後期は、毎回、「裁判と法」が約120通、「民事訴訟法Ⅱ」が1回分で約100通(集中講義なのでこれが2回ある)、「フランス法」が約40通(毎週、合計360通前後)である。12年間で、どれだけの数になっているだろうか。しかし、この膨大な数の中には、これまで、誹謗中傷のようなものはもとより、不真面目なものは1通もなかった(顕名であるからということもあるかもしれないが)。批判的な意見や感想もなかったわけではないが、十分反論に値するものであった。たしかに、毎週これだけの数に目を通し、コメントを書く作業には、それなりの時間をとられるが、学生がどんなことに注目するか、どんなことを考えながら講義を聴いているか、こちらの意図が的確に伝わっているかをリアルタイムで知ることができ、その経験を次の回の講義から直ちに利用することができるプラスと比較すると、十分投資に見合う効果は得られている。毎年、すべての科目について、これだけの学生とやり取りができれば、まず、かなりの学生の顔と名前が一致する。また、学生がその年の講義をどう評価しているかも手に取るようにわかる。しかし、何より重要な効果は、聴講する学生との間にできる信頼関係である。したがって、学期末・年度末の授業評価の結果は、事前に予測することができ、示された結果は、予測と一致している。

(E) 出席およびマイク

出席とマイクは、いずれも、静謐な教室環境を作るという点で、重視している。

すでに延べたように、出席管理はしていない。出席を記録するだけのために教室に来る学生を排除したいからである。学生には、「今日は講義を聴く」という明確な目的意識を持ってきて欲しい。それが、おのずと聴講態度に表れるからである。

マイクを使わないというのは、静謐な環境を作る・維持するということと密

接な関係がある。いわば「ニワトリと卵」である。静かであるからマイクが要らないのか、マイクを使わないから静かになるのか、因果関係は明らかではない。しかし、とにかく、教室は「静謐」ということばが当てはまるように静かである。静まり返っているといってもよい。かといって、活気がないわけではないし、学生がほとんど居眠りをしているわけでもない。きちんと考えながら講義を聴いていることは、出されるアンケートの数、書かれた内容から明らかである(聴いていなければ書けない質問や感想が書かれている)。この静かな環境というのは、私がポリシーを説明した後はもちろんだが(ポリシーを理解してくれた上での共同作業・協力の結果である)、実は、その前、すなわち、学期・年度の最初の講義の日から、自然に作られる。私が黙って教卓の前に立つだけで、教室は静かになる。自分でも不思議だが、これは、上級生のクラスだけでなく、1年生の4月の最初の授業でも同じである。

3 おわりに

以上に述べたところは、文字通り「ひとりの」教員の試みであって、どれだけの普遍性をもっているかという疑問はある。

しかし、これまでの経験から「これだけはいえる」という明らかなことは、授業評価の結果をよくするも、悪くするも、それは一にかかって、担当者が、聴講する学生との間にどれだけの信頼関係を構築することができるかにかかっているという点である。ここに述べた試みは、そうした信頼関係構築のためのひとつの試みでもある。

科目別授業評価結果(2004年度)

キャンパス	(4) 相模原	識別	02
学科	(134) 法	曜日・時限	木曜日
教員	(3627) 西澤 宗英	時限	2時限
科目	(1133) 裁判と法	教室	E103

項目別回答分布(人数と平均値)

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	平均	全体平均
Q1. 学生の授業を履修した理由	126	16	26	1	0	-	-	61	-	-
Q2. 学生の授業への学習意欲	54	75	27	10	4	-	-	0	4.0	3.6
Q3. 学生の授業への出席状況	123	26	8	7	5	-	-	1	4.5	4.6
Q4. 学生の授業への積極性	39	63	46	11	5	-	-	6	3.6	3.5
Q5. 授業の目的・意義の明確さ	97	54	18	0	1	-	-	0	4.4	4.0
Q6. 成績評価基準の明確さ	51	57	46	12	4	-	-	0	3.8	3.8
Q7. クラスサイズの適切さ	30	78	58	3	0	-	-	1	-	-
Q8. 教員の理解を助ける工夫	100	56	12	1	1	-	-	0	4.5	3.8
Q9. 教員の授業の準備	108	45	14	1	1	-	-	1	4.5	4.0
Q10. 教員の学習意欲の刺激	103	45	16	4	2	-	-	0	4.4	3.6
Q11. 教員の熱意	108	48	12	1	1	-	-	0	4.5	3.9
Q12. 授業の総合評価	100	50	17	1	2	-	-	0	4.4	3.8
Q13. 授業内容の理解度	59	75	21	5	4	-	-	6	4.0	3.5
Q14. 授業から得たもの	142	100	72	28	12	0	4	0	-	-
Q15. 担当教員による個別質問1	0	0	0	0	0	-	-	170	-	-
Q16. 担当教員による個別質問2	0	0	0	0	0	-	-	170	-	-
Q17. 担当教員による個別質問3	0	0	0	0	0	-	-	170	-	-
Q18. 担当教員による個別質問4	0	0	0	0	0	-	-	170	-	-
Q19. 担当教員による個別質問5	0	0	0	0	0	-	-	170	-	-

【Q3】で授業への出席率の高い群(a・b)の回答分布

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	平均
Q8. 教員の理解を助ける工夫	94	49	5	1	0	-	-	0	4.6
Q9. 教員の授業の準備	102	37	8	1	0	-	-	1	4.6
Q10. 教員の学習意欲の刺激	99	38	8	4	0	-	-	0	4.6
Q11. 教員の熱意	102	39	7	1	0	-	-	0	4.6
Q12. 授業の総合評価	95	44	9	1	0	-	-	0	4.6
Q13. 授業内容の理解度	57	74	11	1	2	-	-	4	4.1
Q14. 授業から得たもの	127	94	70	26	9	0	2	0	-

【Q3】で授業への出席率の低い群(c・d・e)の回答分布

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	平均
Q8. 教員の理解を助ける工夫	6	6	7	0	1	-	-	0	3.8
Q9. 教員の授業の準備	6	7	6	0	1	-	-	0	3.9
Q10. 教員の学習意欲の刺激	4	6	8	0	2	-	-	0	3.5
Q11. 教員の熱意	6	8	5	0	1	-	-	0	3.9
Q12. 授業の総合評価	5	5	8	0	2	-	-	0	3.6
Q13. 授業内容の理解度	1	1	10	4	2	-	-	2	2.5
Q14. 授業から得たもの	14	6	1	2	3	0	2	0	-

授業の改善に向けて

科目別授業評価結果(2004年度)

キャンパス	(1) 青山	識別	08
学科	(131) 法学部	曜日・時限	金曜日
教員	(3627) 西澤 宗英	時限	3時限
科目	(131037) フランス法	教室	1123

項目別回答分布(人数と平均値)

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	平均	全体平均
Q1. 学生の授業を履修した理由	52	6	7	0	0	-	-	24	-	-
Q2. 学生の授業への学習意欲	15	34	12	4	0	-	-	0	3.9	3.6
Q3. 学生の授業への出席状況	37	18	2	5	3	-	-	0	4.2	4.6
Q4. 学生の授業への積極性	12	32	13	6	1	-	-	1	3.7	3.5
Q5. 授業の目的・意義の明確さ	44	18	2	0	1	-	-	0	4.6	4.0
Q6. 成績評価基準の明確さ	20	21	19	2	2	-	-	1	3.8	3.8
Q7. クラスサイズの適切さ	4	6	55	0	0	-	-	0	-	-
Q8. 教員の理解を助ける工夫	40	22	3	0	0	-	-	0	4.6	3.8
Q9. 教員の授業の準備	53	10	2	0	0	-	-	0	4.8	4.0
Q10. 教員の学習意欲の刺激	34	24	5	1	0	-	-	1	4.4	3.6
Q11. 教員の熱意	55	9	0	0	0	-	-	1	4.8	3.9
Q12. 授業の総合評価	30	32	3	0	0	-	-	0	4.4	3.8
Q13. 授業内容の理解度	21	22	16	1	0	-	-	5	3.7	3.5
Q14. 授業から得たもの	56	31	27	4	7	0	0	1	-	-
Q15. 担当教員による個別質問1	0	0	0	0	0	-	-	65	-	-
Q16. 担当教員による個別質問2	0	0	0	0	0	-	-	65	-	-
Q17. 担当教員による個別質問3	0	0	0	0	0	-	-	65	-	-
Q18. 担当教員による個別質問4	0	0	0	0	0	-	-	65	-	-
Q19. 担当教員による個別質問5	0	0	0	0	0	-	-	65	-	-

【Q3】で授業への出席率の高い群(a・b)の回答分布

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	平均
Q8. 教員の理解を助ける工夫	35	19	1	0	0	-	-	0	4.6
Q9. 教員の授業の準備	46	8	1	0	0	-	-	0	4.8
Q10. 教員の学習意欲の刺激	30	21	3	0	0	-	-	1	4.4
Q11. 教員の熱意	48	6	0	0	0	-	-	1	4.8
Q12. 授業の総合評価	27	27	1	0	0	-	-	0	4.5
Q13. 授業内容の理解度	19	19	11	1	0	-	-	5	3.7
Q14. 授業から得たもの	50	28	26	3	6	0	0	0	-

【Q3】で授業への出席率の低い群(c・d・e)の回答分布

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	平均
Q8. 教員の理解を助ける工夫	5	3	2	0	0	-	-	0	4.3
Q9. 教員の授業の準備	7	2	1	0	0	-	-	0	4.6
Q10. 教員の学習意欲の刺激	4	3	2	1	0	-	-	0	4.0
Q11. 教員の熱意	7	3	0	0	0	-	-	0	4.7
Q12. 授業の総合評価	3	5	2	0	0	-	-	0	4.1
Q13. 授業内容の理解度	2	3	5	0	0	-	-	0	3.7
Q14. 授業から得たもの	6	3	1	1	1	0	0	1	-

科目別授業評価結果(2004年度)

キャンパス	(1) 青山	識別	08
学科	(131) 法学部	曜日・時限	金曜日
教員	(3627) 西澤 宗英	時限	2時限
科目	(131036) 民事訴訟法Ⅱ	教室	910

項目別回答分布(人数と平均値)

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	平均	全体平均
Q1. 学生の授業を履修した理由	46	4	7	0	2	-	-	17	-	-
Q2. 学生の授業への学習意欲	23	22	12	1	1	-	-	0	4.1	3.6
Q3. 学生の授業への出席状況	46	11	1	0	1	-	-	0	4.7	4.6
Q4. 学生の授業への積極性	19	28	11	0	1	-	-	0	4.1	3.5
Q5. 授業の目的・意義の明確さ	43	11	5	0	0	-	-	0	4.6	4.0
Q6. 成績評価基準の明確さ	31	19	6	2	1	-	-	0	4.3	3.8
Q7. クラスサイズの適切さ	1	4	45	8	1	-	-	0	-	-
Q8. 教員の理解を助ける工夫	37	20	2	0	0	-	-	0	4.6	3.8
Q9. 教員の授業の準備	43	15	1	0	0	-	-	0	4.7	4.0
Q10. 教員の学習意欲の刺激	33	20	5	0	0	-	-	1	4.4	3.6
Q11. 教員の熱意	42	15	1	0	0	-	-	1	4.6	3.9
Q12. 授業の総合評価	31	23	4	0	0	-	-	1	4.4	3.8
Q13. 授業内容の理解度	16	20	12	2	1	-	-	8	3.4	3.5
Q14. 授業から得たもの	49	30	14	19	9	0	0	4	-	-
Q15. 担当教員による個別質問1	0	0	0	0	0	-	-	59	-	-
Q16. 担当教員による個別質問2	0	0	0	0	0	-	-	59	-	-
Q17. 担当教員による個別質問3	0	0	0	0	0	-	-	59	-	-
Q18. 担当教員による個別質問4	0	0	0	0	0	-	-	59	-	-
Q19. 担当教員による個別質問5	0	0	0	0	0	-	-	59	-	-

【Q3】で授業への出席率の高い群(a・b)の回答分布

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	平均
Q8. 教員の理解を助ける工夫	36	19	2	0	0	-	-	0	4.6
Q9. 教員の授業の準備	42	14	1	0	0	-	-	0	4.7
Q10. 教員の学習意欲の刺激	33	19	4	0	0	-	-	1	4.4
Q11. 教員の熱意	41	14	1	0	0	-	-	1	4.6
Q12. 授業の総合評価	31	21	4	0	0	-	-	1	4.4
Q13. 授業内容の理解度	16	20	11	2	0	-	-	8	3.5
Q14. 授業から得たもの	48	30	14	19	9	0	0	3	-

【Q3】で授業への出席率の低い群(c・d・e)の回答分布

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	平均
Q8. 教員の理解を助ける工夫	1	1	0	0	0	-	-	0	4.5
Q9. 教員の授業の準備	1	1	0	0	0	-	-	0	4.5
Q10. 教員の学習意欲の刺激	0	1	1	0	0	-	-	0	3.5
Q11. 教員の熱意	1	1	0	0	0	-	-	0	4.5
Q12. 授業の総合評価	0	2	0	0	0	-	-	0	4.0
Q13. 授業内容の理解度	0	0	1	0	1	-	-	0	2.0
Q14. 授業から得たもの	1	0	0	0	0	0	0	1	-

授業の改善に向けて

科目別授業評価結果(2005年度)

キャンパス	(4) 相模原	識別		履修者数	152
学科	(131) 法	曜日・時限	木曜日	回答数	106
教員	(3627) 西澤 宗英	時限	2時限	回答率	69.7%
科目	(161) 法学入門	教室	E103		

項目別回答分布(人数と平均値)

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	当該科目 平均
Q1. 学生の授業を履修した理由	28	6	2	0	7	-	-	66	-
Q2. 学生の授業への学習意欲	37	48	18	1	1	-	-	1	4.1
Q3. 学生の授業への出席状況	91	12	1	0	1	-	-	1	4.8
Q4. 学生の授業への積極性	21	50	29	2	0	-	-	4	3.9
Q5. 授業の目的・意義の明確さ	68	31	7	0	0	-	-	0	4.6
Q6. 成績評価基準の明確さ	54	37	14	1	0	-	-	0	4.4
Q7. クラスサイズの適切さ	10	33	60	3	0	-	-	0	-
Q8. 学生の理解を助ける工夫	63	36	7	0	0	-	-	0	4.5
Q9. 教員の授業準備度	75	25	6	0	0	-	-	0	4.7
Q10. 学生の学習意欲の刺激	64	37	5	0	0	-	-	0	4.6
Q11. 教員の熱意	69	33	4	0	0	-	-	0	4.6
Q12. 授業の総合評価	70	32	3	0	0	-	-	1	4.6
Q13. 授業内容の理解度	30	59	13	0	0	-	-	4	4.2
Q14. 授業から得たもの	94	64	57	26	7	0	1	0	-
Q15. 担当教員による個別質問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q16. 担当教員による個別質問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q17. 担当教員による個別質問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q18. 担当教員による個別質問4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q19. 担当教員による個別質問5	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[Q3]で授業への出席率の高い群(a・b)の回答分布

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	当該科目 平均
Q8. 教員の理解を助ける工夫	60	36	7	0	0	-	-	0	4.5
Q9. 教員の授業の準備	72	25	6	0	0	-	-	0	4.6
Q10. 教員の学習意欲の刺激	61	37	5	0	0	-	-	0	4.5
Q11. 教員の熱意	66	33	4	0	0	-	-	0	4.6
Q12. 授業の総合評価	67	32	3	0	0	-	-	1	4.6
Q13. 授業内容の理解度	29	59	12	0	0	-	-	3	4.2
Q14. 授業から得たもの	92	62	55	26	5	0	1	0	-

[Q3]で授業への出席率の低い群(c・d・e)の回答分布

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	当該科目 平均
Q8. 教員の理解を助ける工夫	2	0	0	0	0	-	-	0	5.0
Q9. 教員の授業の準備	2	0	0	0	0	-	-	0	5.0
Q10. 教員の学習意欲の刺激	2	0	0	0	0	-	-	0	5.0
Q11. 教員の熱意	2	0	0	0	0	-	-	0	5.0
Q12. 授業の総合評価	2	0	0	0	0	-	-	0	5.0
Q13. 授業内容の理解度	1	0	1	0	0	-	-	0	4.0
Q14. 授業から得たもの	1	1	1	0	1	0	0	0	-

科目別授業評価結果(2005年度)

キャンパス	(1) 青山	識別		履修者数	255
学科	(131) 法	曜日・時限	火曜日	回答数	148
教員	(3627) 西澤 宗英	時限	2時限	回答率	58.0%
科目	(152) 民事訴訟法 I	教室	940		

項目別回答分布(人数と平均値)

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	当該科目 平均
Q1. 学生の授業を履修した理由	103	19	18	0	7	-	-	54	-
Q2. 学生の授業への学習意欲	44	77	24	3	0	-	-	0	4.1
Q3. 学生の授業への出席状況	91	41	15	0	1	-	-	0	4.5
Q4. 学生の授業への積極性	31	70	38	8	0	-	-	1	3.8
Q5. 授業の目的・意義の明確さ	116	26	6	0	0	-	-	0	4.7
Q6. 成績評価基準の明確さ	88	41	16	3	0	-	-	0	4.4
Q7. クラスサイズの適切さ	15	37	93	2	0	-	-	1	-
Q8. 学生の理解を助ける工夫	101	41	5	0	0	-	-	1	4.7
Q9. 教員の授業準備度	117	27	3	0	0	-	-	1	4.8
Q10. 学生の学習意欲の刺激	97	38	10	2	0	-	-	1	4.6
Q11. 教員の熱意	118	24	5	0	0	-	-	1	4.8
Q12. 授業の総合評価	97	45	5	0	0	-	-	1	4.6
Q13. 授業内容の理解度	43	72	25	4	0	-	-	4	4.1
Q14. 授業から得たもの	122	81	34	24	18	0	1	3	-
Q15. 担当教員による個別質問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q16. 担当教員による個別質問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q17. 担当教員による個別質問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q18. 担当教員による個別質問4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q19. 担当教員による個別質問5	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【Q3】で授業への出席率の高い群(a・b)の回答分布

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	当該科目 平均
Q8. 教員の理解を助ける工夫	93	34	4	0	0	-	-	1	4.7
Q9. 教員の授業の準備	106	24	1	0	0	-	-	1	4.8
Q10. 教員の学習意欲の刺激	88	34	7	2	0	-	-	1	4.6
Q11. 教員の熱意	106	21	4	0	0	-	-	1	4.8
Q12. 授業の総合評価	89	39	3	0	0	-	-	1	4.7
Q13. 授業内容の理解度	41	69	17	3	0	-	-	2	4.1
Q14. 授業から得たもの	111	76	30	22	18	0	1	3	-

【Q3】で授業への出席率の低い群(c・d・e)の回答分布

	a	b	c	d	e	f	g	無回答	当該科目 平均
Q8. 教員の理解を助ける工夫	8	7	1	0	0	-	-	0	4.4
Q9. 教員の授業の準備	11	3	2	0	0	-	-	0	4.6
Q10. 教員の学習意欲の刺激	9	4	3	0	0	-	-	0	4.4
Q11. 教員の熱意	12	3	1	0	0	-	-	0	4.7
Q12. 授業の総合評価	8	6	2	0	0	-	-	0	4.4
Q13. 授業内容の理解度	2	3	8	1	0	-	-	2	3.4
Q14. 授業から得たもの	11	5	4	2	0	0	0	0	-

授業の改善に向けて

科目別授業評価結果(2005年度)

キャンパス	(1) 青山	識別		履修者数	180
学科	(114) 法	曜日	金曜日	回答数	94
教員	(3627) 西澤 宗英	時限	3時限	回答率	52.2%
科目	フランス法	教室	1173		

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1			無回答	当該科目 平均
Q1. 学生の授業を履修した理由	62	29	21	0	3	—	—	0	—
Q2. 学生の授業への学習意欲	28	34	22	6	2	—	—	2	3.9
Q3. 学生の授業への出席状況	49	33	6	3	3	—	—	0	4.3
Q4. 学生の授業への積極性	21	33	30	6	3	—	—	1	3.7
Q5. 授業の目的・意義の明確さ	52	28	13	1	0	—	—	0	4.4
Q6. 成績評価基準の明確さ	40	35	16	2	0	—	—	1	4.2
Q7. クラスサイズの適切さ	6	20	68	0	0	—	—	0	—
Q8. 授業のわかりやすさ	31	34	24	2	1	—	—	2	4.0
Q9. 授業の難易度	9	38	45	2	0	—	—	0	—
Q10. 授業の速度と話し方の速度の適切さ	37	22	31	1	1	—	—	2	4.0
Q11. 黒板等の使い方の適切さ	32	30	27	4	1	—	—	0	3.9
Q12. 学生の学習意欲の刺激	33	34	20	2	2	—	—	3	4.0
Q13. 教員の熱意	61	26	6	0	0	—	—	1	4.6
Q14. 授業の総合評価	37	42	11	1	1	—	—	2	4.2
Q15. 授業から得たもの	80	25	7	8	1	—	—	4	—
Q51. 担当教員による個別質問1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q52. 担当教員による個別質問2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q53. 担当教員による個別質問3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q54. 担当教員による個別質問4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q55. 担当教員による個別質問5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q56. 担当教員による個別質問6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q57. 担当教員による個別質問7	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q58. 担当教員による個別質問8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q59. 担当教員による個別質問9	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q60. 担当教員による個別質問10	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q61. 担当教員による個別質問11	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q62. 担当教員による個別質問12	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Q63. 担当教員による個別質問13	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【Q3】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1			無回答	当該科目 平均
Q8. 授業のわかりやすさ	29	29	20	2	0	—	—	2	4.1
Q10. 授業の速度と話し方の速度の適切さ	32	22	26	1	0	—	—	1	4.0
Q11. 黒板等の使い方の適切さ	32	24	23	2	1	—	—	0	4.0
Q12. 学生の学習意欲の刺激	31	31	14	2	1	—	—	3	4.1
Q13. 教員の熱意	55	23	3	0	0	—	—	1	4.6
Q14. 授業の総合評価	34	39	8	1	0	—	—	0	4.3
Q15. 授業から得たもの	72	23	5	6	1	—	—	3	4.5

【Q3】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1			無回答	当該科目 平均
Q8. 授業のわかりやすさ	2	5	4	0	1	—	—	0	3.6
Q10. 授業の速度と話し方の速度の適切さ	5	0	5	0	1	—	—	1	3.7
Q11. 黒板等の使い方の適切さ	0	6	4	2	0	—	—	0	3.3
Q12. 学生の学習意欲の刺激	2	3	6	0	1	—	—	0	3.4
Q13. 教員の熱意	6	3	3	0	0	—	—	0	4.3
Q14. 授業の総合評価	3	3	3	0	1	—	—	2	3.7
Q15. 授業から得たもの	8	2	2	2	0	—	—	1	4.1

科目別授業評価結果(2005年度)

キャンパス	(4) 相模原	識別		履修者数	455
学科	(131) 法	曜日	木曜日	回答数	204
教員	(3627) 西澤 宗英	時限	2時限	回答率	44.8%
科目	(216) 裁判と法	教室	E301		

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1			無回答	当該科目 平均
Q1. 学生の授業を履修した理由	135	60	66	0	4	-	-	0	-
Q2. 学生の授業への学習意欲	49	76	68	9	2	-	-	0	3.8
Q3. 学生の授業への出席状況	153	34	11	3	3	-	-	0	4.6
Q4. 学生の授業への積極性	44	80	72	7	1	-	-	0	3.8
Q5. 授業の目的・意義の明確さ	95	83	22	3	1	-	-	0	4.3
Q6. 成績評価基準の明確さ	52	60	70	20	2	-	-	0	3.7
Q7. クラスサイズの適切さ	103	73	27	0	0	-	-	1	-
Q8. 授業のわかりやすさ	78	88	29	3	2	-	-	4	4.2
Q9. 授業の難易度	14	89	98	3	0	-	-	0	-
Q10. 授業の速度と話し方の速度の適切さ	67	57	75	4	1	-	-	0	3.9
Q11. 黒板等の使い方の適切さ	26	45	104	25	3	-	-	1	3.3
Q12. 学生の学習意欲の刺激	63	80	56	3	1	-	-	1	4.0
Q13. 教員の熱意	100	77	23	1	1	-	-	2	4.4
Q14. 授業の総合評価	70	102	28	2	1	-	-	1	4.2
Q15. 授業から得たもの	168	83	41	9	3	-	-	3	-
Q51. 担当教員による個別質問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q52. 担当教員による個別質問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q53. 担当教員による個別質問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q54. 担当教員による個別質問4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q55. 担当教員による個別質問5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q56. 担当教員による個別質問6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q57. 担当教員による個別質問7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q58. 担当教員による個別質問8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q59. 担当教員による個別質問9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q60. 担当教員による個別質問10	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q61. 担当教員による個別質問11	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q62. 担当教員による個別質問12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q63. 担当教員による個別質問13	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【Q3】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1			無回答	当該科目 平均
Q8. 授業のわかりやすさ	72	85	24	1	1	-	-	4	4.2
Q10. 授業の速度と話し方の速度の適切さ	62	52	69	3	1	-	-	0	3.9
Q11. 黒板等の使い方の適切さ	23	45	96	21	2	-	-	0	3.4
Q12. 学生の学習意欲の刺激	60	75	49	1	1	-	-	1	4.0
Q13. 教員の熱意	95	69	21	0	1	-	-	1	4.4
Q14. 授業の総合評価	67	96	20	2	1	-	-	1	4.2
Q15. 授業から得たもの	156	82	37	8	3	-	-	1	4.3

【Q3】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1			無回答	当該科目 平均
Q8. 授業のわかりやすさ	6	3	5	2	1	-	-	0	3.6
Q10. 授業の速度と話し方の速度の適切さ	5	5	6	1	0	-	-	0	3.8
Q11. 黒板等の使い方の適切さ	3	0	8	4	1	-	-	1	3.0
Q12. 学生の学習意欲の刺激	3	5	7	2	0	-	-	0	3.5
Q13. 教員の熱意	5	8	2	1	0	-	-	1	4.1
Q14. 授業の総合評価	3	6	8	0	0	-	-	0	3.7
Q15. 授業から得たもの	12	1	4	1	0	-	-	2	4.3

授業の改善に向けて

科目別授業評価結果(2006年度)

キャンパス	(4) 相模原	講義		履修者数	135
学科	(131) 法	曜日	木曜日	回答数	95
学号	(3627) 西澤 宗英	時間	2時限	回答率	70.4%
科目	(78) 法学入門	教室	E103		

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1			無回答	有効回答率
Q1. 学生の授業を履修した理由	9	7	0	0	89	-	-	0	-
Q2. 学生の授業への学習意欲	28	39	27	1	0	-	-	0	4.0
Q3. 学生の授業への出席状況	84	9	1	1	0	-	-	0	4.9
Q4. 学生の授業への積極性	26	41	22	6	0	-	-	0	3.9
Q5. 授業の目的・意義の明確さ	50	29	14	1	1	-	-	0	4.3
Q6. 成績評価基準の明確さ	31	29	32	2	0	-	-	1	3.9
Q7. クラスサイズの適切さ	9	33	51	0	0	-	-	2	-
Q8. 授業のわかりやすさ	49	29	13	0	1	-	-	3	4.4
Q9. 授業の難易度	6	49	39	0	0	-	-	1	-
Q10. 授業の速度と話し方の速度の適切さ	35	24	32	2	0	-	-	2	4.0
Q11. 黒板等の使い方の適切さ	32	27	28	5	2	-	-	1	3.9
Q12. 学生の学習意欲の刺激	48	30	14	1	1	-	-	1	4.3
Q13. 教員の熱意	57	28	9	0	0	-	-	1	4.5
Q14. 授業の総合評価	61	25	6	1	0	-	-	2	4.6
Q15. 授業から得たもの	74	57	18	13	1	-	-	1	-
Q51. 担当教員による個別質問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q52. 担当教員による個別質問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q53. 担当教員による個別質問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q54. 担当教員による個別質問4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q55. 担当教員による個別質問5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q56. 担当教員による個別質問6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q57. 担当教員による個別質問7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q58. 担当教員による個別質問8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q59. 担当教員による個別質問9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q60. 担当教員による個別質問10	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q61. 担当教員による個別質問11	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q62. 担当教員による個別質問12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q63. 担当教員による個別質問13	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[Q3]で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1			無回答	有効回答率
Q8. 授業のわかりやすさ	49	28	13	0	1	-	-	2	4.4
Q10. 授業の速度と話し方の速度の適切さ	35	23	31	2	0	-	-	2	4.0
Q11. 黒板等の使い方の適切さ	31	26	28	5	2	-	-	1	3.9
Q12. 学生の学習意欲の刺激	48	30	12	1	1	-	-	1	4.3
Q13. 教員の熱意	57	28	9	0	0	-	-	1	4.5
Q14. 授業の総合評価	61	24	5	1	0	-	-	2	4.6
Q15. 授業から得たもの	72	56	17	13	1	-	-	1	4.2

[Q3]で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1			無回答	有効回答率
Q8. 授業のわかりやすさ	0	1	0	0	0	-	-	1	4.0
Q10. 授業の速度と話し方の速度の適切さ	0	1	1	0	0	-	-	0	3.5
Q11. 黒板等の使い方の適切さ	1	1	0	0	0	-	-	0	4.5
Q12. 学生の学習意欲の刺激	0	0	2	0	0	-	-	0	3.0
Q13. 教員の熱意	0	2	0	0	0	-	-	0	4.0
Q14. 授業の総合評価	0	1	1	0	0	-	-	0	3.5
Q15. 授業から得たもの	2	1	1	0	0	-	-	0	4.3